

# 古津軽さんぽMAP 鶴田町

## 曲豆かさをもたらした 江戸時代新田開発裏側の 歴史と水路を辿る

岩木山から十三湖までゆったり流れる岩木川。日での時は干ばつに、雨続きだと洪水に、水をすべての村に行きわたらせるために津軽の殿様から庶民まで、たいへんな苦労をしました。その解決のカギとなった「土淵堰」「廻堰大溜池」ができるまでのものがたりを感じて下さい。

稲刈りも、風と砂から守るため、中腰で土を踏み、防風防砂林、スクリューの木の間に、スタッドの地

昔は溜池の中にあったという神社。白上姫様や城守様、遠きお祀り。御朱印は、鶴田へ寄っていただきます。

足跡一

新田開発のものかたり

昔、昔津軽藩のお殿様は藩を豊かにしようと津軽平野で大規模な新田開発を行いました。

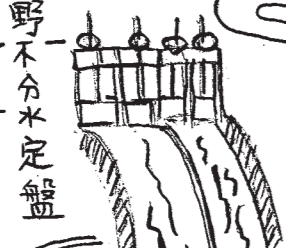
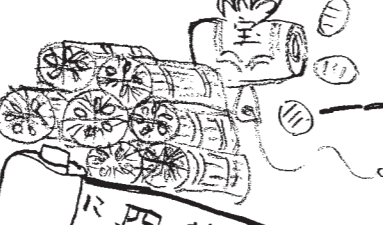
その開発の足跡が、今もこの地に残ります。

一、岩木おろしと日本海の風も防ぐ防風林、防砂林の屏風山発祥の地

二、安定した水供給を担う「土淵堰」

三、水調整機能を「廻堰大溜池」

その他、岩木川の改修や排水路整備で、四、五から三十一石



野不分水定盤、岩木川上流で取水した土淵堰は、ここで東俣と西俣に分かれ、津軽平野を流れる

鶴の舞橋観光施設、ここに、あじさい、千和神社

白龍伝説、約600年前、この地の城主と、龍軍の白上姫は恋に落ちるが、城主は、列の方と結婚した。白上姫は夫恋の悲しみを、持って津軽富士見湖に身を投げた。

その後、大まな白龍があらわれたという...

足跡二

廻堰大溜池 (津軽富士見湖)

津軽藩四代信政公によりつくられた溜池

早ばつや、水不足の時または溜池に水が多くなりすぎた時は自動的に土淵堰に水が流れ込むようになっています

溜池には日本一長い木造の三連太鼓橋

鶴の舞橋があります

階段利用で土手に登るのも、トコナバナも、フェンスあり

土淵堰 (西俣) 水の取り合い (水喧嘩) を防ぐため、岩木川の上流から水を取り入れ、十三湖まで流れてゆく大用水路

やすらぎの駐車場、富士見亭、鶴園

平成五年から丹頂鶴を飼育。入園無料。陸奥鶴田駅の列車到着入園券は、鶴の鳴き声です

水が少い時は、昔燃料として使われていた穴(サレ)を取った跡が見えるかも

テラテラ、水が多い時は、岩木が溜池に写るよ。

手紙やハガキに鶴の舞橋の消印を押しつけてもらえ、水元郵便局

江戸時代からの神社、樹齢三百五十のトチの巨木あり、猪犬の頭は角があるように見えます

正明寺、護念院

入館料無料、歴史文化伝承館

旧水元小学校、体育館に接する西側部分は明治五年に建築。町の歴史や文化に関する展示物あり。昔の農具、なつかしい。

平成二十九年、世界かんがい施設遺産に登録された



この水は、お水の、水喧嘩、木喧嘩